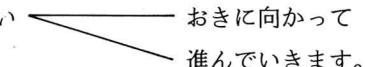


観点・小問ごとの分析	対策の視点
章を書くには…」から誤ってとらえているように思われる。	
<p>二、修飾・被修飾の関係がわかる</p> <p>1.連用修飾語である「<u>ゆうゆうと</u>泳いできます」の正答率(74%)はよいか、2.連体修飾語である「<u>あかるい</u>海を」の正答率(32%)は低い。</p> <p>連体修飾語についての誤答は、</p> <p>あかるい  おきに向かって 進んでいきます。</p> <p>に集中している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語と語の関係をつかませるとき、連用修飾語は、「どんなに—どうする」の関係でとらえることができるし、連体修飾語は、「どんな—何」の関係でとらえることができる。これらのことを見例をもとに指導していくことが大切であろう。
<p>三、主語・述語の関係がわかる</p> <p>1.「雲が一流れました」(59%)、2.「おかさんが一まっています」(64%)で比較的よい。</p> <p>誤答は、主述のとらえ方に集中し、1.では「白い雲が」としたもの、2.では「かさをもって」としたものが目立った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主語・述語をとらえさせる場合、述語を押さえてから、「何が」「だれが」と、主語を捜させる方法が効果的であろう。
<p>四、場面の情景や人物の気持ちが読みとれる</p> <p>正答率は各問とも50%台である。</p> <p>1.場面の読みとりでは、イ「おかさんのゆめをみているようす」と、とらえているものが多い。正答率51%。</p> <p>2.作者の気持ちの読みとりでは、イ「五時間もべんきょうして、あきてしまったから」と、とらえているものが多い。正答率53%。</p> <p>文中の「すぐかえるよ、きょうは五時間だ。」のとらえ方がよくできないための誤りと思われる。</p> <p>3.主題の読みとりでは、エ「学校にいると一日が長くかんじられる」と、とらえている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 詩を読み味わう指導では、作品を読んで直感的に感じたことを唯一のものとするのではなく、いろいろな読みとり方をする態度と、柔軟な解釈力を育てることが大切であろう。そのためには、 <ul style="list-style-type: none"> 静かに、なんべんも繰り返して読む。 一字、一句を大切にして読む。 読みとれるものから、自由に想像し、心の中に情景を描き出しながら読む。 余情、余韻をくみ取るようにする。などに留意して指導に当たりたい。